

福島第一原子力発電所 土壌 Pu 分析結果

1. 測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
グラント(西北西約500m)	6月13日 日本分析 センター	$(1.2 \pm 0.12) \times 10^{-1}$	$(6.8 \pm 0.85) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m)		N.D.	$(1.9 \pm 0.49) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約500m)		$(1.0 \pm 0.11) \times 10^{-1}$	$(4.5 \pm 0.66) \times 10^{-2}$
グラント(西北西約500m)	6月16日 日本原子力 研究開発機構	$(1.5 \pm 0.20) \times 10^{-1}$	N.D.
野鳥の森(西約500m)		N.D.	N.D.
産廃処分場近傍(南南西約500m)		N.D.	N.D.
グラント(西北西約500m)	6月20日 日本分析 センター	$(1.2 \pm 0.12) \times 10^{-1}$	$(5.8 \pm 0.77) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m)		N.D.	$(2.9 \pm 0.56) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約500m)		$(1.7 \pm 0.15) \times 10^{-1}$	$(6.1 \pm 0.81) \times 10^{-2}$
グラント(西北西約500m)	6月23日 日本原子力 研究開発機構	$(3.1 \pm 0.33) \times 10^{-1}$	N.D.
野鳥の森(西約500m)		N.D.	N.D.
産廃処分場近傍(南南西約500m)		N.D.	N.D.
国内の土壌		N.D. ~ 1.5×10^{-1}	N.D. ~ 4.5

：文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

：「グラント」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

6月13,16,20,23日に検出されたPu-238とPu-239、240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、いずれの箇所においても、3/21以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239、Pu-240が検出されているが、値に大きな変化は見られていない。

以上